

- 問題 12 枠組足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 高さが20mを超えるときは、主柱間の間隔は1.85m以下とする。
 2. 足場に設ける水平材は、最上層及び6層以内ごととする。
 3. 高さが5m以上の足場の壁つなぎの間隔は、垂直方向9m以下、水平方向8m以下とする。
 4. 足場の使用高さは、通常使用の場合45m以下とする。
- 問題 13 場所打ちコンクリート杭地業に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. オールケーシング工法において、砂質地盤の場合は、ボーリングを防止するため、孔内水位を地下水位より高く保って掘削する。
 2. リバース工法における2次スライム処理は、一般にトレミー管とサクシオンポンプを連結し、スライムを吸い上げる。
 3. オールケーシング工法では、コンクリート打設中にケーシングチューブの先端を、常に2m以上コンクリート中に入っているように保持する。
 4. プランジャー方式を用いて、水中でコンクリートを打込む場合、トレミー管の先端に前もってプランジャーを装着する。
- 問題 14 鉄筋のガス圧接に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 圧接継手において考慮する鉄筋の長さ方向の縮み量は、鉄筋径の1～1.5倍である。
 2. 同一径の鉄筋をガス圧接する場合の鉄筋中心軸の偏心量は、その径の $\frac{1}{5}$ 以下とする。
 3. SD490の圧接は、第4種の技量資格者が行うことで施工前試験を省略することができる。
 4. 圧接端面の加工を圧接作業の当日より前に行う場合には、端面保護剤を使用する。
- 問題 15 型枠の設計に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. パイプサポートを支保工とするスラブ型枠の場合、打込み時に支保工の上端に作用する水平荷重は、鉛直荷重の5%とする。
 2. 合板を型枠に用いる場合は、方向性による曲げヤング係数の低下を考慮する。
 3. コンクリートの側圧や鉛直荷重に対する型枠の各部材それぞれの許容変形量は、3mm以下とする。
 4. 型枠合板の構造計算に用いる材料の許容応力度は、短期許容応力度とする。